

# 水と土の芸術祭 2012

## 総括報告書

資料編
-----

2013年6月

新潟市文化観光・スポーツ部 水と土の文化推進課

## 目 次

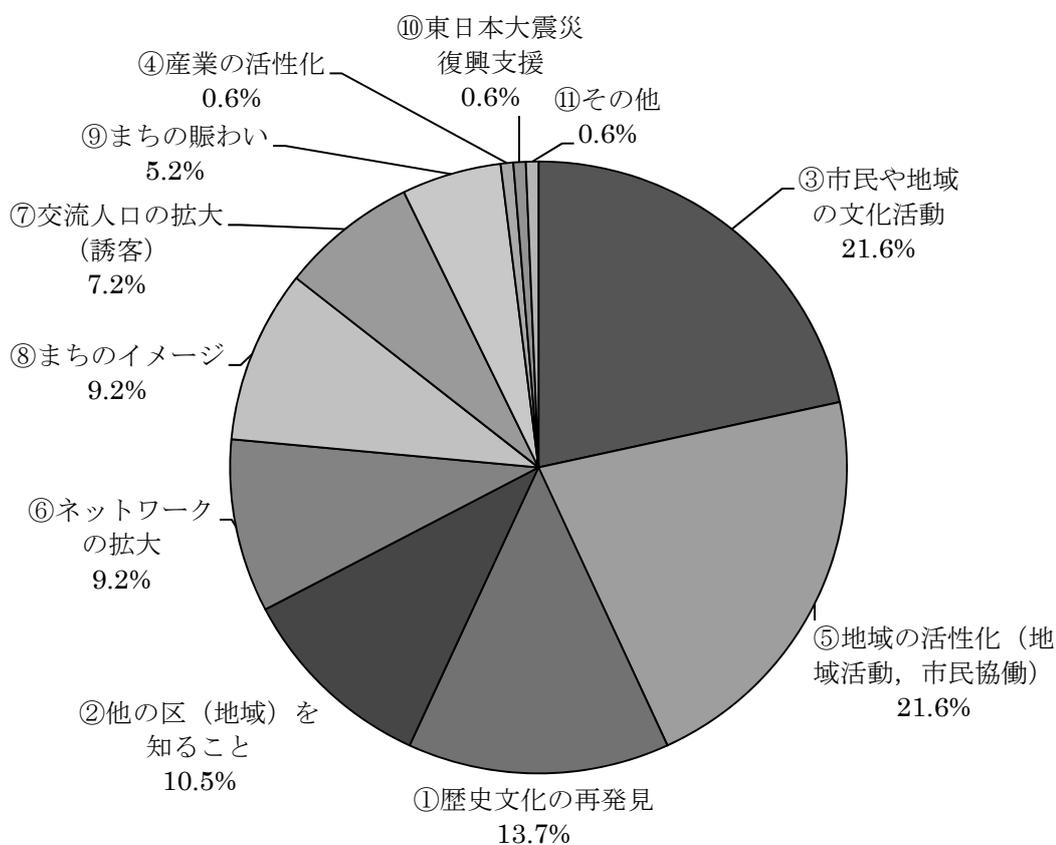
1	実行委員会アンケート	1
2	来場者アンケート	12
3	バスツアー（みずつち号）アンケート	19
4	市民プロジェクト参加者の声	22
5	自治協議会の意見等	24
6	市民サポーター会議提言書等	28
7	ディレクター等の提言	36

## 1. 実行委員アンケート結果(回答数50)

(1) 水と土の芸術祭の開催によって、本市にプラスだったと思うものは何ですか？

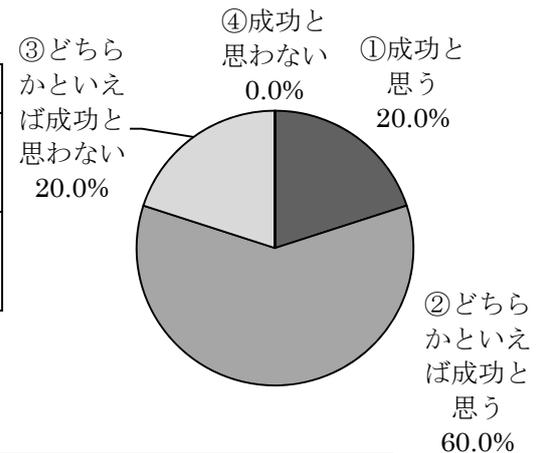
(複数回答可)

項目	人数	割合
①歴史文化の再発見	21名	13.7%
②他の区(地域)を知ること	16名	10.5%
③市民や地域の文化活動	33名	21.6%
④産業の活性化	1名	0.6%
⑤地域の活性化(地域活動, 市民協働)	33名	21.6%
⑥ネットワークの拡大	14名	9.2%
⑦交流人口の拡大(誘客)	11名	7.2%
⑧まちのイメージ	14名	9.2%
⑨まちの賑わい	8名	5.2%
⑩東日本大震災復興支援	1名	0.6%
⑪その他	1名	0.6%



(2) 水と土の芸術祭は、成功だったと思いますか。

項目	人数	割合	
①成功と思う	10名	20.0%	80.0%
②どちらかといえば成功と思う	30名	60.0%	
③どちらかといえば成功と思わない	10名	20.0%	20.0%
④成功と思わない	0名	0%	



【 ① 成功と思う 】

● 継続実施（3件）

- ・ 継続実施できた。
- ・ 「やる」ことが成功だと思う
- ・ 単発で終わらずに2回目の開催でより成熟したものとなった。

● 来場者数の増加（2件）

- ・ 各会場を回ったが、訪問者が多く見られ、また、マスコミ関係(テレビや新聞)でも取り上げられるなど、高い注目度がうかがえた。
- ・ 前回より県外からの来場者数が増えたため。

● その他（2件）

- ・ 自然をテーマにした新潟市独自の取り組みで大変よかったと思う。
- ・ 市民・地域の文化活動や産業の活性化に資することができた。

【 ② どちらかといえば成功と思う 】

● 交流人口の拡大（3件）

- ・ 来場者数も2009年より増加し、県外来場者が35パーセントもいる。若い世代が増加。
- ・ 地域の伝統文化の再発見、紹介。地域の世代間の交流。新潟の紹介につながる誘客。特に県外からの入り込み等により街の賑わいにつながる。
- ・ メイン会場を起点に展開できた。しかし、誘客の面では発表されているほどたくさんの方が来ているようには見られなかった。

● 情報発信・認知度（5件）

- ・ 開催効果の集計結果だけみれば、着実に認知度が上がっていると思われた。
- ・ 新潟市は「水と土の芸術祭」をマスコミなどを通じて、全国に発信させ「政令指定都市にいがた」のイメージアップにつながったと思う。
- ・ TV や新聞など多く取り上げられるとともに、多くの方が訪れたと思う。
- ・ 市、行政が大変努力し情報発信しているにも関わらず、一般住民が強い関心を持つに至らない状況は残念である。

- ・ 大地の芸術祭と同じとだったため、県外や市民への印象が薄かったと思います。
- **作品・作家・市民参加（５件）**
  - ・ 屋外展示が多く、人の目につきやすい。「水都」にいがたを強くイメージさせた。
  - ・ ２回目でもあり、狙いの「水と土の暮らし文化」を発信することについては、ある程度達成できたものとする。また、市民によるアート作品の制作やアーティストとの協働など市民参加も着実に浸透してきたと感じる。
  - ・ 各種ワークショップやイベントへの参加を通じて、効果があったものと考えられるため。
  - ・ 取り組みとしては良いと思うが、新鮮さに欠けた。目的は十分達成されたものとする。
  - ・ 現代アート自体が一般の人には理解できないものが多いという「みずつちのアート」はどちらかというと地味な作品多く、大衆の気を引くような「カラフル」「かわいい」「迫力ある」といった要素がないのが一つの原因だと思う。逆に通にはそれが良かったりするのだと思うが、どんな世界でも「通」はひとにぎりである。
- **地域づくり（３件）**
  - ・ 地域に根差す人たちの協働は、希薄になりがちなコミュニティーに潤いをもたらし、関係づくりに役立つと考える。
  - ・ 街の賑わいが創出され、観光および地域の活性化に貢献したと考えられる。
  - ・ それぞれの地域での再発見があり、つながりが生まれたところ。
- **その他（３件）**
  - ・ 本市にプラスだったと思えることが、いくつか実践された。
  - ・ 新潟市全域にさらに浸透すると良い。
  - ・ 来場者数や入場券の販売額などは前回数値と比較しているだけで、目標値との比較資料がなく、客観的評価が困難である点が残念。

### 【 ③ どちらかといえば成功と思わない 】

- **市民からの理解・認知度（１０件）**
  - ・ 文化芸術に造詣が深い市民や県内外の方および関係者と対極にいらっしゃる人たちの温度差が大きいと感じた。今回は、とてもそれを感じたため。
  - ・ 市の中心部は活性化、ネットワークの拡大があったかもしれないが、郡部の地域は、市民の認識が薄く芸術祭が認知されているとは言い難い。
  - ・ 一般市民への浸透度の低さ。
  - ・ 実際にかかった経費や入場者数のわりには、市民の認知度があまりにも低い。
  - ・ 興味や関心を持つ層が限定的であり、市民文化として発信するイベントにはなっていないと感じる。
  - ・ 情報（全貌）が伝わりきれなかった。
  - ・ 市民から何をしているのか良く分からないという声を多く聞いた。市民プロジェクト等なかなか理解されないままだった。

- ・ コミ協で30人定員のバスツアーを募集したが、個人的に依頼した8人しか集まらなかった。一般市民の関心は変わらないと思った。
- ・ 残念ながら、市を挙げてという形にはならず、市民の盛り上がりは欠いた印象。
- ・ 全体的に盛り上がりは欠け、誘客集客賑わいにつながるに至らなかった。けれども、他区を知り市民文化活動など見直す契機になった。

● **その他（4件）**

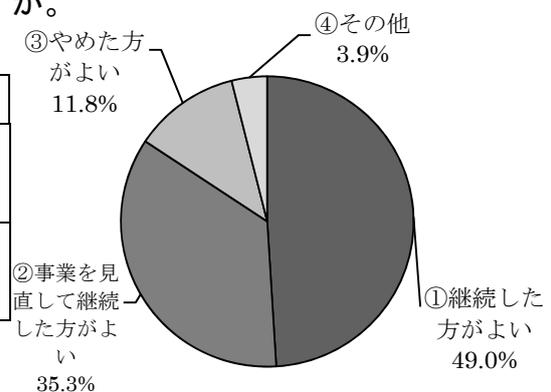
- ・ 県外の若い人たち(学生)が多く訪れていたことはとても良かった。
- ・ 新潟市を多様な切り口で示せた。
- ・ 地域と作家の関係づくりがうまく構築できなかったところもあった。
- ・ 芸術祭の開催効果において、新潟市の魅力や経済等への貢献度に対する定量的な評価が不明である。

【 ④ 成功と思わない 】

回答者0人

(3) 水と土の芸術祭の継続開催についてどう考えますか。

項目	人数	割合	
①継続した方がよい	25名	49.0%	84.3%
②事業を見直して継続した方がよい	18名	35.3%	
③やめた方がよい	6名	11.8%	15.7%
④その他	2名	3.9%	



【 ① 継続したほうがよい 】

● **継続の必要性（9件）**

- ・ 「継続は力なり」で一層の成果拡大を期待したい。
- ・ 自然との共生は畏敬の念を抱きながらも、回数、年月を重ねることでしか成果は出ないと考える。
- ・ 「継続は力なり」。新潟市では、「水と土の芸術祭」「ラフォルジュルネ」「食の陣」「酒の陣」アルビレックスを中心としたスポーツ文化が根差し、誇りとなっていると思う。継続することがこれらの宝物を輝かせる大切なことだと思う。
- ・ 3回4回と継続し、定着を目指すべき。
- ・ 継続は力なりということ、継続することでファンが少しずつ増えると思う。

- ・ 回を重ねるごとに、市民に定着してきた感がある。
- ・ 定着してきていると思う。また、来場者の満足度も高いことから。
- ・ 継続的に地域活性化や都市イメージ醸成を図ることができる。
- ・ 続けることにより、地域のつながりが深まると考える。

● **誘客（1件）**

- ・ 全国から客を呼ぶには、まだ力不足だし、産業の活性化やまちの賑わいには一層の努力が必要。

● **文化創造都市（7件）**

- ・ 地図にない湖と呼ばれていた新潟平野が大きな発展をとげた歴史とこれらを次世代へつなげるメッセージ性の高いイベントである。
- ・ 地域を見つめなおすことができるから。
- ・ 文化創造都市を目指すなら、文化や芸術こそ人々の生活に活力を与える源泉であり、指標で測れない価値観こそ大事にすべきかと思う。
- ・ こどもプロジェクトの各校でのワークショップ、アート授業は、子どもの創造性を育むうえで効果的であったと思う。
- ・ 若い人たちを育てるという意味において成功であり、これは継続したほうが良いと考える。
- ・ 旧万代島水揚場での行事は継続することで、新潟まつりなどとは別に文化的視点で観光客の誘致につなげていけると思う。
- ・ 定期的文化活動の一環となるため。

【 ② 事業を見直して継続した方がよい 】

● **推進体制・予算・展示内容など（5件）**

- ・ 芸術には参加性を謳えばプロなのかアマなのかではなく、これからは小中学生の参加、それも自主的なアクションを伴った協働が望まれる。
- ・ 芸術祭の目的(狙い)を絞り、限られた資源(人, 時間, 金)を有効に活用すべきと考える。
- ・ 地域ごとに水と土の文化があるが、広域すぎて場所がわかりづらいため効率が悪く、集客面で疑問が残る。
- ・ 予算の使い道を今から考えた方が良い。イベントにしてもその場で即興的に決めているような気がする。
- ・ 事業そのものは、地域の活性化や経済効果などを考えれば必要なのだとは思いますが、昨年までの内容では、見に行ってもガッカリという会場が多かったと感じている。

● **その他（5件）**

- ・ 文化芸術を切り口に多様な市民が多様な関わりができる。
- ・ 文化・芸術によって、区(地域)の特徴が際立ち、あるいは共通項を見出し自分の住んでいるところを知り(新しい発見を得られる)、誇りに思うきっかけとなる。
- ・ 新潟が“水との戦い”で成立したことが、当初のコンセプトではなかったか。

- ・ まだまだ認知度が低い
- ・ せっかく産まれた芸術祭だから、改めるべきところは改めて「継続」した方がいいと思う。

【 ③ やめた方がよい 】

● 開催期間及び認知度（3件）

- ・ 全体として関心が薄すぎる。ダラダラ開催はインパクトに欠ける。
- ・ 約5カ月に渡る開催期間と開催費に対して来場者数、経済効果等はほかの大型イベントに比べても高い水準になるとは思われない。県外への知名度も高まったとは思われず、全市民的な盛り上がりも感じられなかった。
- ・ 市民の間で「本市が水と土の暮らし文化」という認識、イメージが共有されているか。市民文化として、普及・定着することが先決ではないか。

● その他（3件）

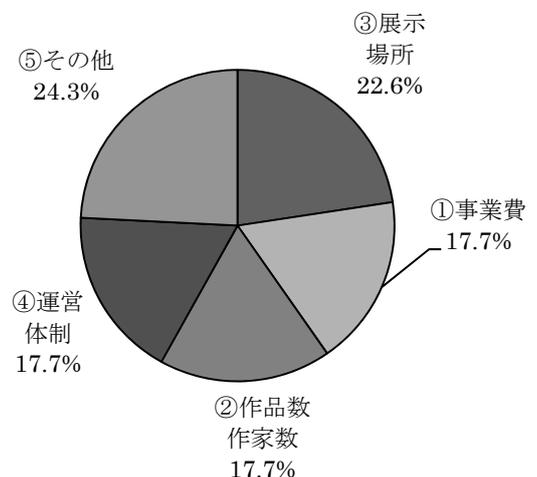
- ・ 範囲が広すぎるので見学に行けない地域があり残念に思う。バスなどをもっと多くしてコースなどを選べるようなやり方にしてほしい。西蒲区は昨年バスを運行してよかった。
- ・ ラフォルジュルネなどは大変良いと思ったが、「みずつち」はあまりに“多様＝散漫”すぎて、極端な言い方をすれば、アーティスト等の勝手な作品が広い範囲にバラバラに散らばっているという感じで、感動がなかった。
- ・ 毎年開催ではインパクト・新鮮さに欠ける。

【 ④ その他 】

- ・ 来場者数、入場券の販売結果に関する実績では判断が難しい。細かいアンケートなど必要。
- ・ どちらともいえないため。

（4）3で「見直して継続」を選んだ方にお聞きします。何を見直したらよいと思いますか。（複数回答可）

項目	人数	割合
①事業費	11名	17.7%
②作品数・作家数	11名	17.7%
③展示場所	14名	22.6%
④運営体制	11名	17.7%
⑤その他	15名	24.3%



## 【 ① 事業費 】

### ● 事業費の縮減，民間からの協賛（7件）

- ・ 社会を営む為の大事な出費。
- ・ 芸術祭の効果を検証する予算をあらかじめ計上してはどうか？
- ・ 予算は，市民の生活環境の充実が先立つため，それを市民に理解が得られる優先順位に位置付ける。
- ・ 2009年および2012年の予算規模は必要ないと思う。少ない予算でもできる事業があるはず。
- ・ 約1億8,900万円もの市費を投じているため，可能な範囲で縮減することが望ましい。
- ・ 花火大会のように企業からスポンサーになってもらうのはどうか。
- ・ 公費負担が多すぎると思う。市民や企業など民間からの協賛を増加させる工夫をすべき。

### ● 期間・エリアの縮小（2件）

- ・ 期間が長すぎる(短期的に集中したらよいのでは)
- ・ エリアや会期を縮小してコンパクトな開催としてはどうか。

### ● その他（2件）

- ・ 文化の定着は見せることではなく，参加しその作品を残すことで，一般の人の多くが意義を感じると思う。→市民参加ベースの事業
- ・ 芸術祭では，市民活動の促進やプロのアート作品などによる県外客の誘客促進など複数の目的を掲げているが，時間も労力も事業費も膨らむ。目的(たとえば，県外客の誘客)を絞り，それに沿った事業展開で限られた資源を最大限有効に活用されたらと考える。

## 【 ② 作品数・作家数 】

### ● 作家選定（6件）

- ・ イメージとしては，現代アートなので有名でなくても，新潟出身や新潟と関係の深い作家を選んでほしい。作品数は少なくとも大きな作品があった方がいい。
- ・ 新潟市に縁のある作家，学生を中心にする。
- ・ 多すぎると思う。地元の作家さんを利用したらどうか。
- ・ 国際的な新潟市として，交流都市の作家の作品も含める。
- ・ マンガ家とのコラボ作品などもおもしろい(新潟はマンガ王国)。
- ・ 客寄せと言ってしまうとやらしいが，著名な作家を2～3名とみずつちのシンボリックな作家(王さん・クインビーンさん等)あとは予算に応じて(若手等)

### ● その他（7件）

- ・ アートプロジェクトは良い。
- ・ 姉妹都市のナント市での開催の成功は多くの示唆があるものと思うが，いわゆる小豆島(瀬戸内国際芸術祭)のような現代アート(の方向を目指す)のではなく市民(庶

民)が主役にならなければ盛り上がらないと考える。→市民が主役

- ・ 市民プロジェクトは各区の地域振興予算などで措置することとし、芸術祭では、プロのアート作品をメインに事業展開したらどうか。
- ・ とにかく全体的に作品がマニアックすぎて素人にはまったく理解できない。もう少しわかりやすく、単純に良い・素晴らしいと思える作品をそろえてほしい。
- ・ 作品展数、会場などを縮小し、内容を濃くするため、テーマを1つに絞る。
- ・ 数を減らして、コンパクトにじっくり鑑賞できる方がよい
- ・ 周遊が困難なため旧市内(黒埼を含む)での開催が望ましいのではないかと。

### 【 ③ 展示場所 】

#### ● 作品及び展示場所（12件）

- ・ 恒久作品を多くしてほしい。場所の選定は、もっと早期に始めるべき。市内の数か所に集中させるのも一考
- ・ やはり良い作品でも遠い所は来場者が少ないように思う。アクセスの見直しが必要。
- ・ 数か所程度に集約し、1日で見れるような工夫が良い。
- ・ 中央区のみとし、“ラフォルジュルネ”や市芸(秋の)などと一緒に期間開催として美術館や公共施設を会場にして盛り上げる。
- ・ 新潟駅から行きやすい場所、アクセスの良い場所が良いと思います。
- ・ 拠点エリアにより集中させた方が良くと思う。新潟駅周辺や空港など交通拠点を利用する広域来街者にも芸術祭イメージを感じさせる工夫をすべき。
- ・ 場所を選ぶのは、どのようにしているのか。毎回同じようなところではないだろうか。
- ・ 農村部に1つか2つの展示物は、目立たないため、もっと市民の目を引くような工夫が必要である。
- ・ 交通網が比較的整ったエリア(JR駅徒歩圏内、中央循環バス沿線など)をメインに。
- ・ 作品の展示が点在しているので、ある程度、作品数を集約して展示拠点(市内に複数確保)で効率的に展示し、移動距離をコンパクトにしてはどうか？
- ・ 公共交通アクセスの利便性や駐車場の確保も必要である。
- ・ 地域を知るためには必要なのかもしれないが、場所が点在しすぎて、しかも1つ1つは、正直あまり大したことなかったりするんで、わざわざ見に行ってもガッカリすることが多かった。

#### ● その他（4件）

- ・ 年度毎に区を巡回。
- ・ やはりこれだけの規模のものをやるには、行政と市民の二人三脚がベストだと思う。美術評論家の権木野衣さんとかにアイデアやアドバイスをもらいながらみんなで考えて…
- ・ 新潟の12月は寒く屋外展示を鑑賞するには無理がある。
- ・ 過去に県主催のNACアジア文化祭10億以上の投資をしながら何の遺産もない→継続を前提に作品の設置数を開催ごとに増やす。

#### 【 ④ 運営体制 】

##### ● 市民・ボランティアとの関わり（3件）

- ・ 地域が一体になって取り組むような作品が良いと思う。小学校、中学校とも連絡を密にし良い物を見学させていけるように。
- ・ 市民主体と言っておきながら、はたして本当にそうだったのか。市民プロジェクトと芸術祭のつながりが足りなかったように思う。
- ・ 今回も多くのボランティアの方に支えられていた印象を受けた。一方で市の職員の方の仕事量を増大させていたようにみえるため、理解あるボランティアを組織化しておくことと思う。

##### ● その他（5件）

- ・ たとえばモノ作り・工芸・美術→造ることへの市内指導者への協力体制の構築(ネットワーク)を粘り強く10・・・30年先を見据えてほしい。
- ・ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・システム)を積極的に取り入れ宣伝すべきである。
- ・ 認知度においてもうひとつ一般市民に広がりが見られなかったように思う。
- ・ イベントの性格上のことかもしれないが、現代アートという特定の分野の関係者に片寄りすぎているのではないかと思う。
- ・ 展示期間が長期となっているが、新潟の気候などを考慮し、全体期間をもう少し短縮し、集中的に実施してはどうか？

#### 【 ⑤ その他 】

##### ● 市民へのPR, 関心度の向上（4件）

- ・ 市民の文化芸術への関心度を日常的に上げる工夫をする。
- ・ 子供、学生など若年層への教育的な貢献や、知識層への協力を促すこと。これらイベントを行う以前に日常化する。
- ・ もっと開催前のPR活動に力を入れるべき。新潟市民へのPRが不足している。
- ・ 市民がわかり易く共感が持てる内容とすべき。

##### ● 大地の芸術祭との比較（2件）

- ・ 十日町の「大地の芸術祭」の認知度が高く、その一部と思われがちのため、違いを明確にすべきである(内容もすごく似ている)
- ・ 現状のままでは、どうしても越後妻有大地の芸術祭の二番煎じとの謗りを免れないので、新潟市としてコンセプトの独自性を再検討すべきではないか。

##### ● 展示場所及び期間（5件）

- ・ 期間を3カ月位に短縮したら、ダラダラ感がなくなって良いのでは！？
- ・ 広域に作品を展示するならば開催期間を短くする。(長いといつでも行けると思って、なかなか行こうとしないため)
- ・ 作品の場所が分かりにくかった。HPにわかりやすい地図を出すとか無料でもらえる

MAP を早い時期に出してほしい。(大地の芸術祭はその点もたいへんわかりやすいので参考にしてほしい)

- ・ 開催当初、マップや作家・作品紹介がなかったので、マップ類は早めに配布できた方がよいと思います。
- ・ 市内の観光施設と連携し、その敷地内または隣接地に展示拠点を設置し、市民や観光客が気軽に立ち寄れる雰囲気の中、スタンプラリー等でさらに集客効果を高め、新潟市の経済効果等に貢献出来ればよいと思う。

● **その他（5件）**

- ・ 市民の皆さんの考えなど聞いてほしい。ほとんどの方々は見学にいかない。
- ・ パスポートが少し高いと思う。運営費全体を見てみると入場料の収入は15%程度なので、もう少し安くてもよいのではないかと個人的に感じた。美術館をよく利用するので、割引がついているし、と購入したが、割引は100円でせめて200円くらいあったら、お得感がかんじられるのでは？
- ・ 街の景観イメージと作品の調和
- ・ 組織体制とは・・・一市民よりの賛同と支持の得られるオピニオンが望まれます。
- ・ 寒く暗いイメージの冬期間も芸術祭を実施したらどうか。信濃川を巨大なキャンバスに、やすらぎ堤の桜並木や川面をライトアップするなどして、光の芸術祭として実施。冬期の観光資源である「食」、そこに「光」を加えることで新潟市の魅力向上につながるものとする。

(5) その他水と土の芸術祭について気がついた点がございましたらご記入ください。

● **市民への広報・認知度（3件）**

- ・ 否定的な意見や関心度の低さを感じたが、個人的には、全面的な否定ばかりではないと思っている。ここで結ばれた市民の皆様がどこかで力を発揮してくださることを期待しています。
- ・ 水と土の芸術祭について、キーマンがいれば地域とつながったり何かしようとするが、いないと芸術祭に参加しようとか作家が作品を作っていることさえ知らないことが多い。地域とつながるきっかけづくりを丁寧にするとういのは。
- ・ 新聞・市報・テレビなど、たくさんPRしている状況であるが、情報が、きちんと市民全員にとどいているか、そのために、どれだけの工夫と努力がなされているかを再チェックして、関係者以外の市民の心に届く方法を考える事をしなければと思う。

● **アート（4件）**

- ・ 近代アートのみではなく、ふつうの美術展のように、写真や絵画(水や土に関するテーマで)があった方がいい。

- ・ 現代アートの難しさかもしれないが、「芸術」イコール「美しい」というイメージからかけ離れた作品が目立ったように思う。むしろ一般市民の目には、街の景観を阻害しているのではないかと写ってもおかしくないと思われる作品が少なくなかったと感じている。また、拠点となった万代島の倉庫は、東日本大震災の津波の爪跡を連想させるようでむしろ痛々しく感じた。
  - ・ 県外からの来場者には、参加作家のかねてからのファンが多く含まれていた印象がある。集客を求めするためには、それもひとつの方策だと思うが、作品を通して新潟の水と土の文化を伝えられたのか、効果に疑問を抱く。また、作品の中には水と土の文化を感じる事が難しいものも散見された
  - ・ 心に残る作品にめぐり逢えなかったことが、残念であった。私の鑑賞力の低さによるものかもしれないが・・・
- **会期（1件）**
- ・ 会期が長いことでプラスな面もあるとは思うが、長いことで後半作品の損傷や故障が目立つし、それにかかわる人たちもモチベーションを維持し続けるのが大変だと思う。1か月～長くても3カ月位にしてやる側も観る側も集中して情熱を燃やした方がいいと思います。「水と土の芸術祭」なくなるのはさみしいです。ぜひ継続を！！
- **誘客（2件）**
- ・ 新潟に誘客を進めるために東京または、大阪にも作品を展示し、広告塔のようなものを作成してはどうか。
  - ・ ワークショップやイベントは、参加して楽しいものが多く、取り組み方を工夫して後年度も開催できるとよいが、いわゆる誘客という点では弱いと思われる。
- **その他（5件）**
- ・ 取り組みとしては良かったと思う、目的は十分達成したものと考えます
  - ・ マップ類の配布が遅かったこと、道路などの看板等が不案内でした。メイン会場は行きやすく楽しめました。
  - ・ 実行委員会にかかわった多くの人の労苦が報われるシチュエーションも必要と考えます。
  - ・ 各会場でのホスピタリティをもっと上げる必要があるといった意見をもらった。（大地の芸術祭などとの比較で）
  - ・ 有料の場合は、その対価に見合う内容を。

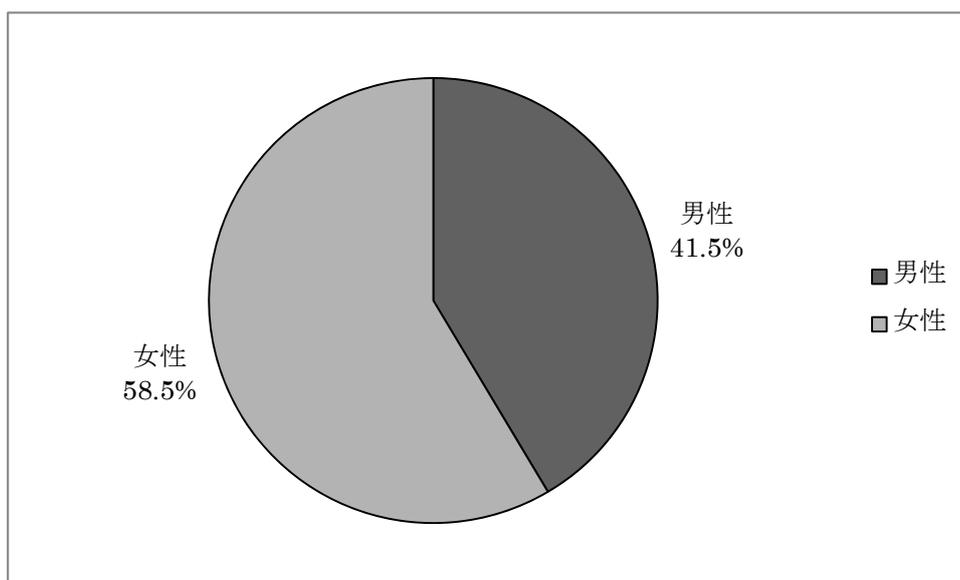
## 2. 来場者アンケート

### ◆ 調査の実施概要

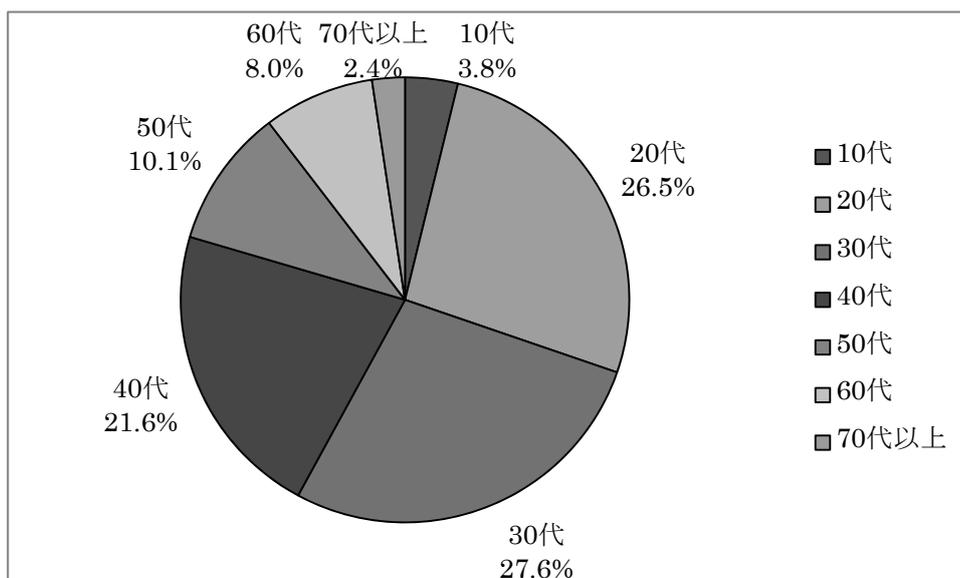
- ① 調査対象 メイン会場の来場者
- ② 調査時期 平成24年7月14日～12月24日
- ③ 回収状況 有効回答数 : 1,029 件

### (1) 回答者の属性

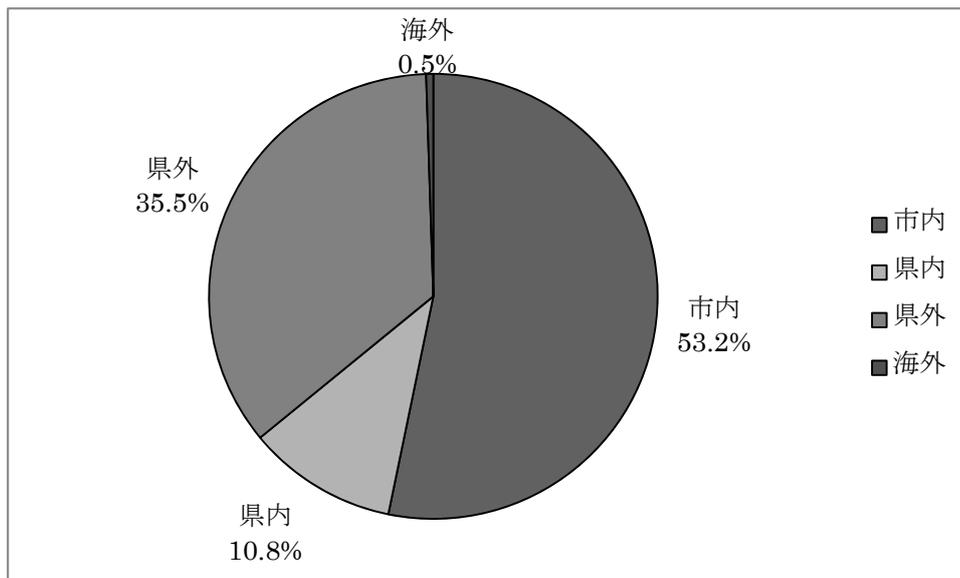
#### ① 来場者の性別



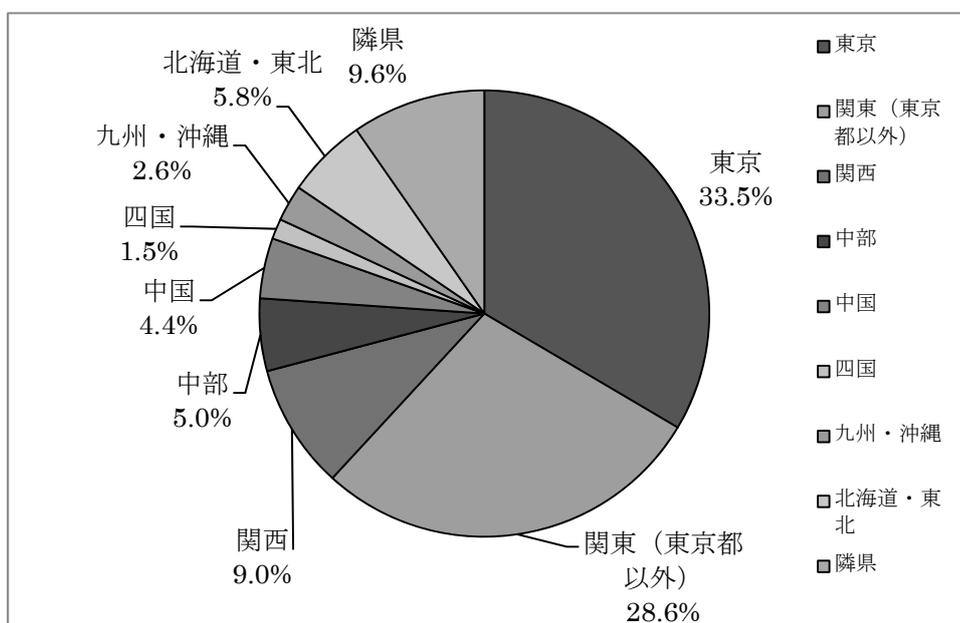
#### ② 来場者の年代



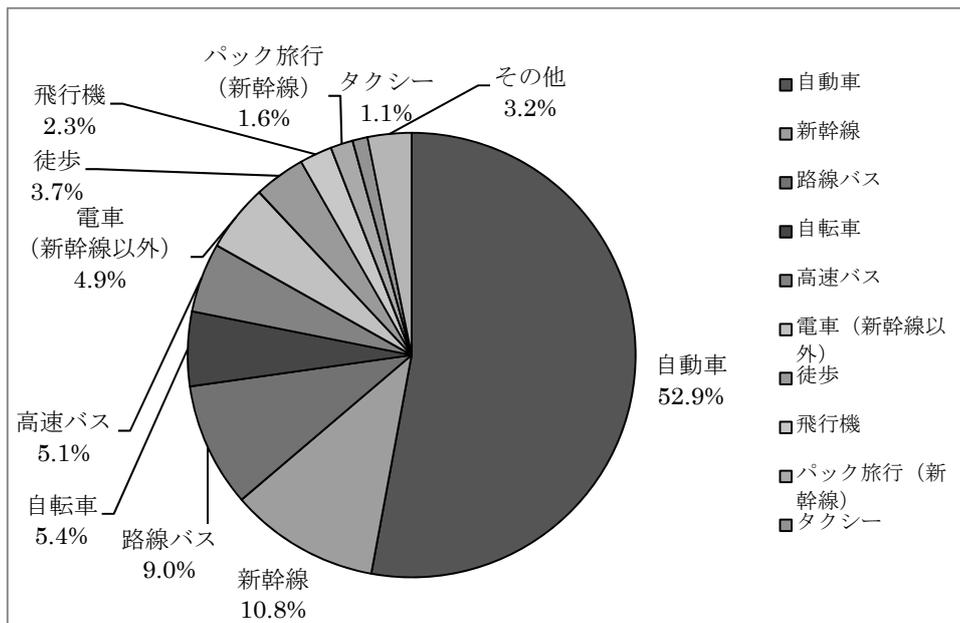
③ 来場者の居住地



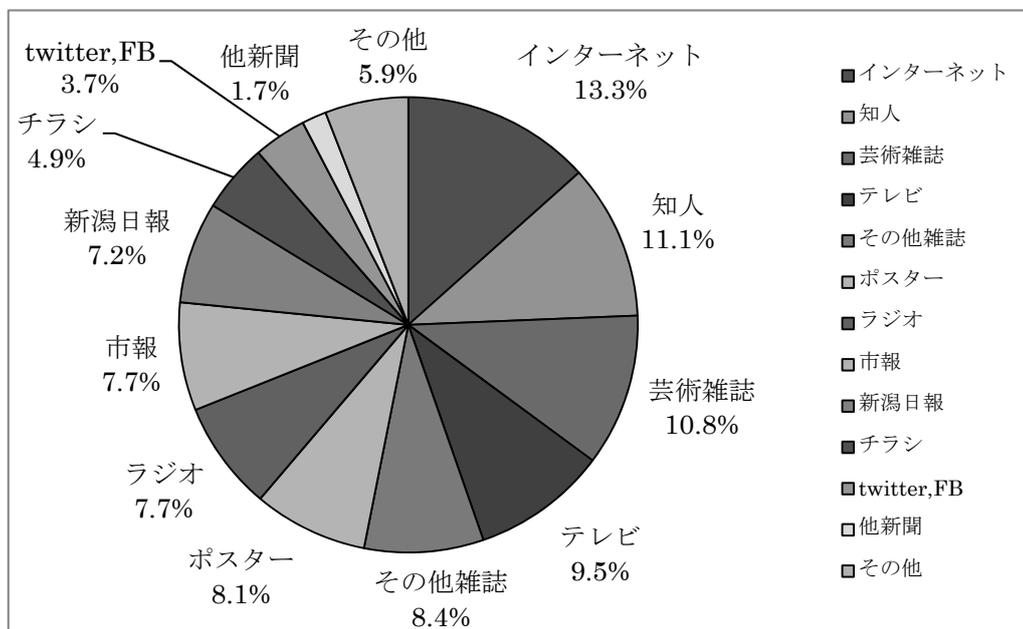
④ 県外来場者の居住地域



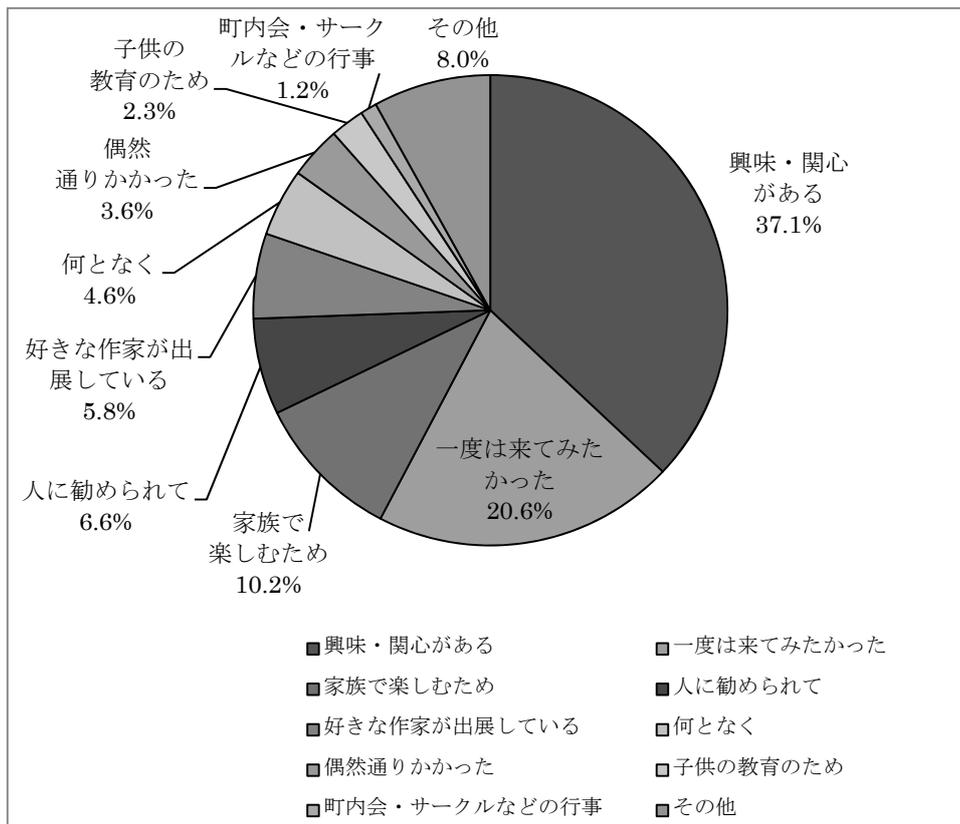
(2) 来場に際しての交通手段 (複数回答可)



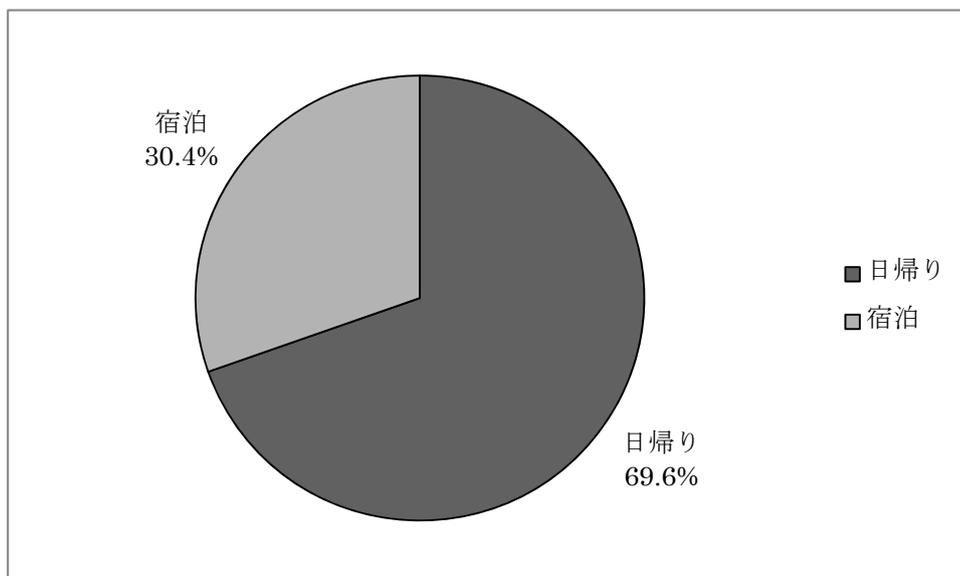
(3) 水と土の芸術祭 2012 を知った情報媒体 (複数回答可)



(4) 水と土の芸術祭を訪れた理由 (複数回答可)

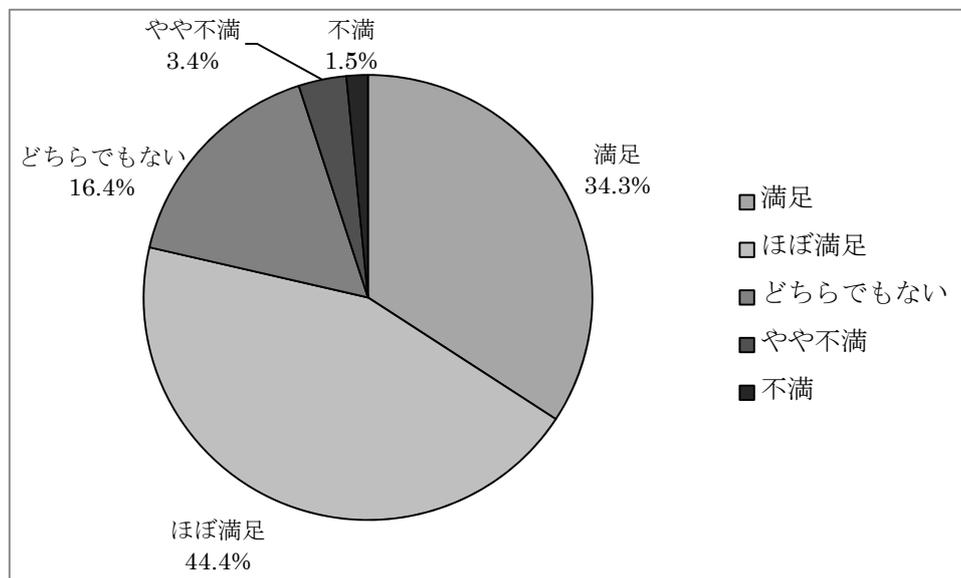


(5) 宿泊・日帰り



## (6) 水と土の芸術祭 2012 への感想

### ① 5段階評価



### ② 自由意見回答

本芸術祭への自由意見を尋ねたところ、回答件数527件(県外178件 市内・県内349件)となった。

#### ◆ 意見分類一覧

主な分野	意見件数※
(1) 芸術祭全般・メイン会場に関するご意見・感想	394件
(2) 個別の作品に関するご意見・感想	81件
(3) 会場アクセス(二次交通・誘導サイン・作品配置等)に関するご意見・感想	51件
(4) 芸術祭の今後に関するご意見・感想	45件
(5) 広報(チラシ・マップ・ガイドブック等)に関するご意見・感想	36件
(6) スタンプラリー等に関するご意見・感想	20件
(7) スタッフ対応に関するご意見・感想	14件
(8) 芸術祭会期に関するご意見・感想	14件

※ 一つの自由意見が複数にまたがる場合、それぞれに分けて集計しているため、自由意見の合計は、自由意見への回答件数(527件)と一致しない。

◆ 主な意見

主な分野	主な意見(一部抜粋有)・同内容の意見件数
(1) 芸術祭全般・ メイン会場に 関するご意 見・感想	<p>■ 「楽しい」「また来たい」など、芸術祭への好意的な意見・感想…262件 【県外 98 件 市内・県内 164 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回初めて訪れましたが、また足を運んでみたいと思いました。(30代女性 福島県)</li> <li>・来るのは初めてですが期待以上でとても満足です。(20代女性 市内) など</li> </ul> <p>■ アート展示・展示会場に関する感想など…61件【県外 23 件 市内・県内 38 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海と風が気持ち良かったです。(50代女性 神奈川県)</li> <li>・昔の記憶のようなものに出会ったようだった。(50代男性 市内) など</li> </ul> <p>■ 芸術祭への意見・提案・改善要望など(休館日, 施設, チケット等について)…47件 【県外 11 件 市内・県内 36 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに作品のテーマを知れたらよかったです。(10代女性 福岡県)</li> <li>・せめて夏休み期間だけでも無休にしてほしい。(30代女性 市内) など</li> </ul> <p>■ 芸術祭への不評・不満・苦情など…26件【県外 5 件 市内・県内 21 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奇妙な”アート”が沢山で意味はちょっと不明。(60代女性 東京都)</li> <li>・前回よりは興味が持てなかった。(40代女性 市内) など</li> </ul>
(2) 個別の作品 に関するご意 見・感想	<p>■ 個別のアート作品に関する好評意見…77件【県外 31 件 市内・県内 46 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西野さんの作品素敵！大カマボコの雨の作品もよかったです。(20代女性 東京都)</li> <li>・おもしろ半分制作所は大変楽しかった!!VeryGood!!(50代男性 市内) など</li> </ul> <p>■ 個別のアート作品への不評・不満・苦情など…2件【県外 0 件 市内・県内 2 件】</p>
(3) 会場アクセス (二次交通・ 誘導サイン 等)に関する ご意見・感想	<p>■ アクセス情報, 案内表示が不足している。…29件【県外 9 件 市内・県内 20 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看板やのぼりの数が少ない。(20代女性 東京都)</li> <li>・会場がわかりにくい。(30代男性 市内) など</li> </ul> <p>■ 会場が広範すぎる。行きにくい。…12件【県外 6 件 市内・県内 6 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地カンがないので作品を見に行くのが大変です。(30代男性 神奈川県)</li> <li>・エリア広すぎ。一日で廻れるスケールにしてほしい。(40代男性 市内) など</li> </ul>
(4) 芸術祭・メイ ン会場の今 後に関するご 意見・感想	<p>■ 今後も芸術祭を継続してほしい。…37件【県外 12 件 市内・県内 25 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年後もあるといいです。(30代男性 東京都)</li> <li>・これからも定期的に行ってほしい。(40代女性 市内) など</li> </ul> <p>■ 今後もメイン会場の活用を図っていくべき。…3件【県外 1 件 市内・県内 2 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化ゾーンとして残した方がよいと思います。(40代男性 石川県) など</li> </ul> <p>■ 何らかの取り組みを継続していくべき。…2件【県外 0 件 市内・県内 2 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何かを何回もやるのがよいと思う。(60代男性 市内) など</li> </ul> <p>■ 芸術祭をやめるべき。…1件【県外 0 件 市内・県内 1 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すぐにやめるべきだ。(50代男性 市内)</li> </ul>
(5) 広報(チラシ・ マップ・ガイド ブック等)に 関するご意 見・感想	<p>■ 地図・ガイドブック・HP等の改善要望…22件【県外 8 件 市内・県内 14 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図に細かなところをもっと書いてほしい。(30代男性 秋田県)</li> <li>・案内図パンフレットがもう少しわかりやすいとよかった。(50代女性 市内) など</li> </ul> <p>■ 芸術祭のPRが不足している。…14件【県外 4 件 市内・県内 10 件】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少しプロモーションに力を入れた方がよい。(40代女性 愛知県)</li> <li>・もう少し県内外を含めアピールをした方がよいと思います。(40代女性 市内) など</li> </ul>

主な分野	主な意見(一部抜粋有)・同内容の意見件数
(6) スタンプラリー等に関するご意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スタンプラリーが楽しい。…15件【県外 4 件 市内・県内 11 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの作品に合わせたはんこが素敵です。(20 代女性 茨城県)</li> <li>・スタンプラリーがたのしい。子供が参加しやすい。(30 代女性 市内) など</li> </ul> </li> <li>■ スタンプラリーへの不評・不満・苦情など…4件【県外 1 件 市内・県内 3 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・はんこがおしづらい。(60 代女性 市内) など</li> </ul> </li> </ul>
(7) スタッフ対応に関するご意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スタッフの対応が良い。…8件【県外 3 件 市内・県内 5 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・係の方々がみなさま温かい対応してくださったのがありがたかったです。(30 代女性 茨城県)</li> <li>・受付の人の対応がとても良かったです。(50 代女性 市内) など</li> </ul> </li> <li>■ スタッフの対応への不評・不満・苦情など…5件【県外 3 件 市内・県内 2 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・やや係員が頼りない。(50 代女性 兵庫県)</li> <li>・質問のたびに「ちょっとお待ちください」と言われました。(30 代女性 市内) など</li> </ul> </li> </ul>
(8) 芸術祭会期に関するご意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 芸術祭会期が長すぎる。冬の作品鑑賞は寒い。…11件【県外 1 件 市内・県内 10 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施期間が長いので、イベント性に欠ける。(30 代女性 市内)</li> <li>・寒くてゆっくり見られなかったです。(20 代男性 市内) など</li> </ul> </li> <li>■ 芸術祭会期が長くて良い。…2件【県外 2 件 市内・県内 0 件】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間が長いのがありがたいです。(20 代女性 東京都)</li> <li>・期間が長いのがすごく良い。(見きれなくてもまた次の休みに来れる) (30 代女性 香川県) など</li> </ul> </li> </ul>

### 3. バスツアー(みずつち号)アンケート

開催期間中 53 日間運行，午前便 46 便，午後便 47 便，1 日便 6 便 計 99 便

#### ◆ 調査の実施概要

- ① 調査対象 バスツアー参加者
  - ② 調査時期 平成24年8月18日～12月24日(半日便71便,1日便6便 計77便)
  - ③ アンケート回収数 約700件
- ※一部未記入のものがあるので，回収数と各設問合計数は一致しない。

#### ◆利用者の年齢層

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	71歳以上	未回答	合計
人数	22	53	87	96	135	149	119	13	674
割合	3.3%	7.9%	12.9%	14.2%	20.0%	22.1%	17.7%	1.9%	100.0%

#### ◆利用者の性別

	男性	女性	未回答	合計
人数	129	252	290	671
割合	19.2%	37.6%	43.2%	100.0%

#### ◆何でバスツアーを知ったか

	市報	知人	HP	新聞 新聞広告	チラシ	雑誌	テレビ	合計
人数	332	138	138	62	59	14	3	746
割合	44.5%	18.5%	18.5%	8.3%	7.9%	1.9%	0.4%	100.0%

#### ◆どこから来たか (市内, 県内外)

	新潟市内	県内	県外	合計
人数	459	35	180	674
割合	68.1%	5.2%	26.7%	100.0%

#### ◆どこから来たか (市内)

	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	未回答	合計
人数	44	68	185	38	19	3	98	1	3	459
割合	9.6%	14.8%	40.3%	8.3%	4.1%	0.7%	21.4%	0.2%	0.6%	100.0%

◆どこから来たか（県内）

	長岡市	三条市	燕市	新発田市	佐渡市	加茂市	見附市	十日町市	合計
人数	11	7	7	5	2	1	1	1	35
割合	31.4%	20.0%	20.0%	14.2%	5.7%	2.9%	2.9%	2.9%	100.0%

◆どこから来たか（県外）

	関東	関西	北海道	東北	東海	九州	北陸	甲信	四国
人数	135	13	10	8	4	3	2	1	1
割合	75.0%	7.2%	5.6%	4.4%	2.2%	1.7%	1.1%	0.6%	0.6%

沖縄	未回答	合計
1	2	180
0.6%	1.0%	100.0%

◆満足度調査：平均

	県外	市外県内	市内
価格	1.54	1.79	1.43
内容	1.69	2.18	1.55
行程	2.98	2.82	2.33

※満足度数値の読み方

価格：1 大変満足    2 満足    3 普通    4 少し不満    5 不満  
 内容：1 大変満足    2 満足    3 普通    4 少し不満    5 不満  
 行程：1 長い    2 やや長い    3 丁度良い    4 少し短い    5 不満

アンケート内容で特に多かったもの（文章は内容を要約し記載）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地を巡りながら、ボランティアガイドさんの説明で、新潟の知らない事が勉強できた。</li> <li>・ ボランティアガイドさんの説明で、作品とその土地の関わりがわかりました。</li> <li>・ ボランティアガイドさんが、とても感じよく親切でした。</li> <li>・ 自分たちでは、なかなか回れないエリアの作品もじっくり鑑賞でき、良かった。</li> <li>・ 個人では、行く事の出来ない所に行けて良かった。</li> <li>・ 昼食がとても、美味しくおどろきました。（団体ツアーらしくなく、とても良かった）</li> <li>・ どの見学地も、想像以上の作品と会場で、特に妙光寺での作品には、感動しまし</li> </ul>
---

た。

- たまたま、作者が居られ直接に説明も聴け、感動しました。
- 祖父興野の作品が、素晴らしかった。
- 現地の市民プロジェクトの関係者の話が、とても良かった。
- 運転手さんが、声を荒げ怖かった。
- 出発時刻が、印刷物と違っていた。
- 平日にも、運行されていたらと思う。
- 作品が、理解できない。

## 4. 市民プロジェクト参加者の声

### 2012 高森の丘発「新潟獅子・神楽まつり」（高森神楽保存会）

「新潟市には水と土に生まれ大切に受け継がれてきた民族芸能『獅子神楽』が伝承されています。しかし、なかにはこれまでの歴史の中で、いくつかの貴重な『獅子神楽』が消えてしまいました。神楽伝承 300 年を受け継ぐ私たちは、後継者育成に励む 8 団体と共に『獅子神楽まつり』を盛大に開催しました。」

### 市民音楽劇「キビタシの森～淳足柵（沼垂の柵）物語」（東区市民劇団 座・未来）

「新潟には水と土から語り継ぐべき物語と魂とが太古から存在しており、そこに在る自然と先人との想いと願いとを表現することが私たちの使命だと私は想っています。この度、東区市民劇団にその機会を与えて頂いたことは何よりも天恵と心より感謝しております。」

### Kid' s の陶板アート（Kid' s の陶板アート実行委員会）

「粘土板に魚や水中生物の絵を描き、工程を経て本物の陶板が出来上がります。1人1匹の魚たちが命が吹き込まれたように泳ぎまわっていました。子どもたちの歓声と笑顔が忘れられません。お世話になった高井 進先生、行政の皆さん、先生方ありがとうございました。」

### 解体間近の旧亀田町役場を舞台にした2つの市民プロジェクト

#### 亀田町役場の記憶／“土からの記憶そして再生へ”

〔 旧亀田町役場庁舎を活用した地域プロジェクト実行委員会  
“土からの記憶そして再生へ” 実行委員会 〕

「旧亀田町役場のアート番として、訪れたたくさんの方と触れ合いました。作品に目を輝かせる子どもたちや、思い出話に花を咲かせる方…。愛着の深いこの建物はなくなるけれど、アートを介して生まれた人の繋がりや思い出として残っていくことを嬉しく思います。」

### 信濃川の舟運で栄えた小須戸の歴史的町並みを活かしたプロジェクト

#### （小須戸町並み景観まちづくり研究会）

「まち歩きや町屋での演奏会等を開催し、参加者からは『小須戸に歴史ある町屋が多く残ることを知らなかった。』『また季節を変えて町を訪れたい。』といった声が聞かれました。地域の町屋・町並みの素晴らしさを多くの方から知ってもらおう良い機会となりました。」

### 聴け!!味方の風（味方の風を聴く会）

「この学校を卒業して初めて校内に足を入れました。静かに味方の風の奏でる音色に耳を澄ませば過ぎ去った日々。移りゆく旧味方村ですが、老いを感じながら音色に聞き入っています。」

### 2012 新川ほたる（夢アートうちの）

「ワー綺麗とか、毎年続けてほしいとか、いろいろな言葉・意見が有りましたが、1人の男の子が「こんなに綺麗なホテル、お母さんに見せてあげたい」と。だけど「お母さんは仕事で無理だよ」とお父さん。私たちも最終日の消灯を伸ばしても、でも無理でした…。」

### ふるさとに届け、希望の灯り“鯛車”（鯛車復活プロジェクト）

「鯛車絵付け教室は東日本大震災で被災され新潟に避難されている家族を対象に行ったのですが、参加者がとても前向きで逆に主催者側の私たちが勇気を頂きました。完成した鯛車のあかりを灯すことで、少しでも皆さんの心を和らげることができたら嬉しいです。」

## 5. 自治協議会の意見等

平成25年度の5月の各区自治協議会で芸術祭のお礼と事業報告を行い、下記のような質問、意見を頂いた。

### 【 北区 】

- 基本理念はどこに具現化されているか？
- 参加アーティストに思いを伝え、具現化してもらっている。シンポジウム等を通じて基本理念に対する理解を深める学びあいの場を作った。
  
- 大地の芸術祭との相互連携はどのように行ったのか？
- パスポート販売、広報、海外アピールなどにおいて相互協力の態勢を取っている。
  
- 反省点についてはどういうものがあるか？
- 地理間のない県外の人が作品をくまなく鑑賞するのが難しかったと考えている。その他、芸術祭に関するアンケートなどから課題を明らかにしていく。
  
- 宿泊をどのように増やしていくか考えてほしい。
  
- 海岸にあった作品(おひるねハウス)が営業の人の昼寝場所になっていたりした。作品の意味がわからないものがあるが、解説などはつけたのか？
- 看板に説明をつけガイドブックにも書いた。しかし芸術家の中には注釈がつくのを嫌がる人もいるので、難しい面もある。
  
- 市民プロジェクトで採択されていないものが25件あるがこれはどういったものか？
- 市民プロジェクトの申請者が自ら辞退したものです。
  
- 今回の芸術祭は、東日本大震災を考える契機とできたか？アンケートの方に、東日本大震災についての記載がない。
- アンケートで直接的な質問は取らなかった。しかし、シンポジウムやみずつち学校を始め、さまざまな取り組みを通じてメッセージを伝えられたと思う。
  
- これからの活動として、3潟に力を入れるとあるが、水と土の芸術祭との関連性はあるのか？それとも別個なものなのか？
- 水と土の芸術祭のイベントとは別だが基本理念ではつながっている。水と土の象徴とも言える存在が潟だが、市民にはその存在が当たり前すぎてなかなか外に魅力を発信できていない。潟の魅力をPRしていくために、各区の潟に関する人たちと連携をとりながら研究していきたい。

### 【 東区 】

- 経済波及効果はどのように算出したのか？
- 水と土の芸術祭への来場者に対して、食事やお土産などにいくら使ったか、アンケートを取った。そのアンケートを集計したものを民間の調査会社に委託して、算出した。

### 【 中央区 】

- アンケートはどの作品が良かったかなどを聞くべき。報告書には良かった点・悪かった点を盛り込んだ方が良い。
- 本日の資料は、開催結果の概要である。現在各方面から意見をもらっており、今後整理していく。
  
- 企画段階の目標はどのようなものか。
- 目標は大きく3つ。新・新潟市のアイデンティティ作り、文化創造都市の前進、交流人口の増大。
  
- 経済波及効果の出し方は？パブリシティ効果は、経済波及効果に入っているのか？
- 経済波及効果は、来場者に消費額などをアンケートしその結果等からシンクタンクが算出した。パブリシティ効果は、新聞記事やテレビニュースなどを広告換算した場合の金額を記載してある。この額は経済波及効果の金額には含まれていない。
  
- 来場者は、夏休みの入り込み客か、それとも芸術祭を目的とした人か。
- どちらかという、夏は、オリンピックと猛暑で来場者は足踏みの状態であった。秋以降も平均して入っている。
  
- 白山公園駐車場でアルバイトをしていた際に、どこで何を展示しているのか聞かれたが案内できなかった。また、このガラクタという作品が多かった。
- 情報が行き届かなかった点は、反省している。作品について、評価が難しい。人によっては同じ作品を高く評価している。特にメイン会場内の一部の作品については、賛否両論が大きく分かれている。

### 【 江南区 】

- 市民プロジェクトとみずつち合宿は定着させていくべき
  
- 10代と70代の参加者が少ない。どのような移動手段があったのか？
- 休日に1日2便ミニバスツアーを運行していた。周知は足りなかったかもしれないのでその点は反省している。

- 学校の宿題で作品見学をさせられたが、親が同伴するとパスポートが1,500円, 2,000円と高い。
- 入場料は、安いところでは200円, 高くても1,000円の単館入場券も準備していた。料金が低いという要望は受け取った。
- 2009年の芸術祭では早めに区のツアーの連絡をもらったので行けた。しかし今回の芸術祭はツアーの連絡が遅かったので行けなかった。
- 事業の準備や広報が遅れて申し訳ございませんでした。
- 入場料, パスポートが高すぎる。客足を遠のかせないためにも料金低減を検討してほしい。
- パスポート料金が低いという声は聞くので, 2009年の芸術祭より500円価格を下げた。しかしそれでも低いという声を聞くので検討課題としたい。

#### 【 秋葉区 】

- 開催場所が中央区に偏っていて秋葉区に対する配慮が足りないのではないか。なぜこのような開催のやり方になったのか。
- 2009年で新潟市内各所にアートを展示したところ, 広域すぎて全てを回るのが難しいという意見が多かったため, 2012年は信濃川下流域に集中させた。中央区に偏りすぎているという指摘は重く受け止めたい。
- 入場券の販売方法はパスポート中心なのか? 会場の単館券が中心なのか?
- 入場券についてはお得に全てを回れるパスポートを利用してほしいと思っている。
- 2009年の水と土の芸術祭より人が入ったらしいが地元の方はピンと来ていない。
- 広報で開幕までの機運醸成や各地元でのプロジェクト実施をもっと訴えていけばよかったと反省している。
- 水と土の芸術祭の今後に対する取り組み方は?
- 第3回芸術祭の開催について, 現時点では未定ですが, 各方面からアンケートをとりながら成果と課題を分析していく。
- 芸術祭を開催して何を獲得しようとしたのかよく見えない。
- 開催目的は主に「水と土」を全市民のアイデンティティとすること, 市民の文化創造活動を活発にしたいということ, 県外からの誘客を増やしたいということの3つ。
- 市民プロジェクトは秋葉区からもっと参加した方が良かったのか?

- 秋葉区は少ないわけではないが、数を伸ばして行って頂けるとありがたい。

#### 【 南区 】

- 水と土の芸術祭に行ったが、せっかくチケットを購入したのに会場がいろいろな場所にあるせいで時間がなくなり、全てを見ることができなかった。バスなどの交通手段はあったのか？
- 今回は信濃川下流に作品を集中させ、周辺の交通には、ミニバスツアーを運行していたが、周知が足りなかったのかもしれない。参考にさせていただく。

#### 【 西区 】

- 文化芸術は大事だと思うが市民税を使ってこういうイベントをやるのはどうなのか？そういう市民からの声をどう考えているか？
- 温度差があることは理解している。新潟市だけでなく国も文化を使ってまちづくりをしている。この予算については妥当だと思うが、検討していく。

#### 【 西蒲区 】

質問・意見等はなし

## 6. 市民サポーターズ会議提言書等

### (1) 2015・2018 水と土の芸術祭について（提言）

平成 25 年 5 月 31 日

水と土の芸術祭サポーターズ会議

代表 風間 武

2012 年 7 月 14 日から 12 月 24 日まで開催された「水と土の芸術祭」に、市民サポーターの集まりとして自主的に参加してきた私たちとして、今後、この取組に対してどのような参画の在り方があるのかを自らの立場から勘案し議論してきました。

その結果を踏まえ、水と土の芸術祭の実行委員会事務局機能を持ち、当該芸術祭に対し予算を計上、執行する新潟市に対して、下記のとおり提言します。

#### ①2015・2018 年に水と土の芸術祭を開催する。

各年代、市内各地域の人々が関わることを目的とし、新潟市が持つ地域性を生かした芸術祭を継続する。2009 年、2012 年開催の成果検証を踏まえ、事業の継続性を重視し、少なくとも、10 年の節目であり新潟港開港 150 年となる、2018 年度までは実施する。自主的に参加する立場である市民サポーターは、次回開催の有無が明らかであることは、参画する上でのモチベーションを保ち、かつ次の目標に向けて活動を進める上で必要不可欠であり、行政としての判断を求めたい。

#### ②運営組織については新たに市民実行委員会を組織する。

本芸術祭は市民が参画する芸術祭であり、その運営母体となる実行委員会は市民主体で組織されることが理想的である。

#### ③行政においては関係する部局による支援体制の速やかな整備を図る。

市民実行委員会の体制が機能し活動することができるよう、行政側はその支援体制を確固たるものとする。これまでの芸術祭実施を通じて構築されてきた様々な市民団体の活動（例：市民サポーターズ会議、ガイドチーム、作品を設置してきた各地域毎の取組等）について、改めてヒアリングを行う等、事務局として現状把握ならびに今後の活動に対する意見等、アンケートのみでなく、意見交換する場を設定し、アートプロジェクトを介した主体的な活動の継続に向けたネットワーク構築を図る。

## (2) 市民サポーターズ会議の声

### 【 ① 市民プロジェクト 】

- ・ 今回は、市民プロジェクトに重きを置いたので、市民・地域レベルの活動が活発化した。
- ・ 市民の文化活動の活性につながった(市民プロジェクトがいくつもできた)。
- ・ 2009年からの積み重ねとしての市民プロジェクト、特に市民団体が作家を招聘してのプロジェクトが大きな成果をあげたと感じる。
- ・ 市民を巻き込んだプロジェクトは1～2回で成果の出るものではない。継続してこそ、1～2回目にやったことの価値が生まれてくる。実際に、1～2回目にかかわった人には感動体験と併せて、問題意識が芽生えている。地元の人を感じている以上に、他都市からみた新潟のイメージは確実によくなっている。
- ・ 地域のプロジェクトは、継続性が必要であるため。※抜本的な見直しは必要ないと感じた。
- ・ 市民プロジェクトに十分な予算を配分すべき。
- ・ 2回程度の開催では認知度も低く、地域にも定着しないのではないかと。せっかく今回、市民プロジェクトというかたちで芸術文化を身近に感じる関わる事ができたのに、これで終わりにしてしまうのはもったいない。
- ・ 地域で継続的に活動する市民団体が主体となり市民が作家をハンドリングしていく活動を展開していく市民プロジェクトを中心にした芸術祭にしたいと願う。
- ・ プレイベント的なプロジェクトを今年度から募集、実施する。
- ・ 市民プロジェクトについて、地域で継続的に活動して来ている団体をしっかり支援する態勢、予算措置など。
- ・ 市民プロジェクトを全区対象として募集するなら区毎に担当部署を設けないと事務局だけでは人員も移動も大変である

### 【 ② アートプロジェクト 】

#### i) アート作品展示

- ・ いろいろな作品を見ることができ、その作品それぞれがとてもよかったから。また見たい、もっと見たい、次の機会にはもっと芸術祭に関わりたいと思わせられたから。
- ・ 現代アートに多くめぐり逢えた。
- ・ 今年の事業は素晴らしかった。地元のアートネットワークも十分に活用されていた。自分の子どももアーティストの人たちと交流できて、人生の宝を得た。心から感謝している。
- ・ 市民が最新のアート活動に触れることで、人材・産業の育成、起業を促す。
- ・ 作品ストックが増えることで市内に徐々に見どころが増える。
- ・ アートに関係する予算が少額であったため、アート予算を拡充する。
- ・ 数より配置や見せ方だと思う。

- ・ 大地や瀬戸内のように、アート作品と市民・地域プロジェクトが相互にリンクする形が良い。初回の水土のように、目玉となる大規模な作品が各地に必要。
- ・ 残すべき作品を(設置する場所)開催前に決め、これに金と手間を集中してはどうか。
- ・ 欲張りすぎの感がある。

#### ii) 参加作家・作品

- ・ 作家との交流は有意義であった。
- ・ 個人的に知る他の芸術祭と比較して、作品の質、市民参加の質が高いと考えられたため。
- ・ 新潟で活動したアーティストの知名度が上がれば、より著名なアーティストの参加が期待され、飛躍的に入り込みが増える可能性がある。
- ・ 新潟市内の学生の作品導入。
- ・ 新潟駅連立化や運輸局跡地など都市開発と連携した展示開催なんてどうか。
- ・ ディレクターの招聘した作家の作品には市民から不評のものが多い。専門家からは高い評価があったというが、市民が喜ばない作品制作に多額のお金を使うのは疑問である。
- ・ 数よりも質を重視してほしい。
- ・ 質が重視されるべきで、作家そのものの知名度より良質の作品を吟味するレベルとどうか能力が必要だと思います。

#### iii) 作品展示会場

- ・ 第一回の昭和橋、芸術文化会館のやすらぎ堤にある作品が存在しているのが、とても良いと思っています。このようにいつまでも作品を固定展示されるべきと思います。また屋外に置けるような作品を専門の館に収容していつでも見学できる(楽しめる)ようにしたらどうか。
- ・ 2回の開催で重複する作品も多くなりマンネリ化を防ぐためにも全ての区で行うのではなく移動なども考え隣接する二つの区で隔年ごとに実施してはどうでしょうか。新潟の文化を世界に発信するために必要な芸術祭です。続けて行ってもらいたいと思います。
- ・ 分散の必要性もわかるが、さらにポイントを絞って良いと思う。本市の競争力・魅力づくりを重視するならば中心街の方が良い。残さないと資産にならない。
- ・ 数は減らしてよいと感じた。2泊3日などの長期滞在者もいると思うが、作品めぐりをするのが大変であった。
- ・ 芸術祭終了後の利用・維持を前提にした作品配置(一部)。建物・施設など。
- ・ メイン会場があってもよいが、各地に目玉となる大規模な作品が必要。
- ・ 各区(8区)に拠点となる会場を設定し、その拠点ごとのネットワーク、その区の中のネットワークを形成するような展示箇所の在り方を検討してほしい。

### 【 ③ パフォーマンス 】

- ・かもめシアターでいろいろなイベントがほぼ無料で開かれたり、まるで、海外(ヨーロッパ)みたいな文化的な素晴らしさを感じた
- ・歌のワークショップ、無料コンサートに参加しましたが素晴らしい内容を無料、もしくは低価格で参加できるのは素晴らしいですね。行政がこのようにバックアップされるの大変ありがたいです。また、堀川さんの企画がととてもよかったです。色んな繋がり、可能性を感じました。ダイドコさん、素晴らしい活躍をされていたのもっとアピールすべきです！！あまり参加できなかつたので、次回はもっと楽しみたいと思いました。皆様、素敵な一年をありがとうございました。
- ・企画、準備はたいへんだらうけどかもめシアターをもっと一般の方にも参加できる出し物があったらよかった。たとえば個人的には、芸術祭とはすこしづれるかもしれないけど、新発田のはなよめごりょうコーラスコンクールのよう、新潟にもコーラスグループはたくさんあるので、新潟市の歌砂山のコンクールとか音楽文化会館でやっているリレーコンサートのような感じで開放してくれる日もあったらちょっとした時間に立ち寄る人もいるかもしれない。

### 【 ④ 二次交通など 】

- ・数を減らし、展示環境とそこへのアクセスやサービスの質を上げた方が良いと感じた。
- ・ガイドチームにふさわしい講演会・見学会などの行事を紹介していただきたい。
- ・新潟市バスガイドチーム(通商ガイドチーム)が存在することを新潟市の関係機関に周知していただき、「宝物(財産)」を活用する機会を作っていただきたい。
- ・案内の充実は必要だと思います。(特に近くに行ってから)
- ・今回は作品展示がある程度まとまっていたが市内中心部から40kmも離れた西蒲などに移動するための手段が無かった(若しくは利便性が悪かった)。

### 【 ⑤ 広報 】

- ・「タイトル」はそのまま活かすとしてもロゴやマークを一新する。広報はわかりやすさと親しみあるデザイン徹底的に行う。
- ・西堀ローサにPRコーナーがまだあるかわかりませんが、そういう固定的なPRショールームが必要で、そこには「情報」「グッズ販売」「市民の意見箱」などがありいつでも市民と触れ合うのが大切かと思えます。
- ・はたして多くの市民に知れ渡ったかが疑問？つまり直接に作品を見に来るとかがないと意味がないと思うし、一部の人だけではダメだろうと思えます。
- ・認知度が低かった。
- ・あれだけのイベントがあったのにも関わらず、チラシ、周知が足りない。遅い。それはとてももったいなくて残念なことです。コスト面も含めて。
- ・市でやっているのだから、小中学校のほうでも、子供達やご家庭にもう少し詳しい説

明をして芸術祭をPRしていただけないものかと思った。

- ・ 企画される人、段取りする人は大変なんだと思いますがなんか準備不足だったり、PR不足だったり、中身は楽しいのに知る人ぞ知るって感じのところもあって残念な気がします。庶民的には、チラシの紙質がよすぎて、枚数も多い気がして、そんなところにお金をかけるより・・・とかちりも積もれば山となるっていうくらい節約できるところもあるのではないかと思ってしまう。
- ・ 芸術祭の必要性、楽しみ方・見方・接し方を市民等が上手に理解できる機会がないかなど。

#### 【 ⑥ 組織 】

- ・ 前回、今回と確実に運営もボランティアも、進歩していると思う。根付くまでに5回はやらなければならないと思います。どんな方法でも継続すべき。さらに言えば、毎年コンパクトな形でもやるべき事業だと思う。
- ・ 実行委員会形式をとらざるをえないと思うが、行政主導の形がベストと思う。市民レベルでは物理的に無理だろう。
- ・ 行政の介入は必須。今の形がベースで良い。
- ・ 水と土の事務局はもっと人を増やさねばならないと思います。スタッフがまたやりたいと言える芸術祭でなくてはなりません。
- ・ 急には不可能だが、人材の安定的雇用を図った方が良いと思われた。
- ・ 事務局体制の見直し(人員数の不足)。職員や関係者の巻き込み不足。
- ・ 事務局と市民サポーターの一体感が感じられない。
- ・ ディレクター4名は不要。実績のあるプロデューサー一人、ディレクター一人で十分。事務局は市民プロジェクトの支援を中心とし、区ごとに担当者を置く。プロデューサー、ディレクターの選定にあたってはサポーターズ会議や市民の意見を。
- ・ 随所に準備不足が感じられた。次回開催を目指すのであれば、閉幕と同時に次階プロジェクトが、スタートするぐらいでないと、準備不足の繰り返しとなる懸念あり。(次回開催を2015年と考えた場合)
- ・ これまでのサポーターズ会議をさらに整備、発展させた活動組織とし、新潟市からの支援を受けつつ、水と土の文化推進課と密接に連携しながら芸術祭を作っていく。
- ・ 行政側とプロデューサー、スタッフの意識の違いを感じました。大変失礼とは思いますが誤解を恐れずに申し上げると「やはりお役所…」という感じで、行政側に柔軟性が必要と思われました。比べてしまいますが金沢の21世紀美術館は素晴らしいと思います。また開催期間は短めでよいかと思いました。
- ・ 行政主導はやめる(今回はそう感じた)

#### 【 ⑦ 来場者数、入場券販売状況 】

- ・ 県外からの来場者数の増加、市民プロジェクトの活性。

- ・ サポート活動をしていて、県外の方がたくさん来てくださったことが感じ取られる。また、親子で楽しめるイベントもたくさんあった。
- ・ それなりに新潟市がにぎわった。参加者に「水土」の意義が多少理解できたようだ。開催によって新潟市での市民活動が見えた。普段「芸術祭」に無縁の人達にも知ってもらおう機会になった。
- ・ 絶対数は多くないかもしれないが、県外から着実にお客さんが来ている。
- ・ 新潟には、食関連のイベントでかなり賑わいを見せますが、やはり圏域外の集客効果は魅力的なイベントが必要です。
- ・ 入場料の値下げ。

#### 【 ⑧ 経済波及効果 】

- ・ 新潟の水と土芸術祭への手伝いは初めて参加したのですが、次回にまた芸術祭有るか無いかで人の動きが違います。早く決めたほうがそれにむけた活動で経済効果活性化になるのに何の問題があるのか。
- ・ 誘客の促進につながった(新潟ツアーを組みやすかった)。
- ・ 産業・文化振興など様々な面で活用できる種をまいた。
- ・ 市民等に理解さえ得られれば、事業費はかけられるだけかけてよい。地域の産業や資源として将来還元される。
- ・ 「水と土」にこだわらず、純粹に様々な分野のアートを展開して、市民や地域の文化活動活性化の「起爆剤」となることを目指した方が良いと思う。芸術祭をもって産業の活性化や経済効果を求めることはマイナスと思う。

#### 【 ⑨ 助成・協賛 】

- ・ 産業育成・起業促進の視点を重視。いわゆる芸術性だけではなく、金(商売)のにおいを感じさせる。企業の商品企画・製造部門とのタイアップ。現役の技術者や商人が無理なく参加できる仕組みづくり。

#### 【 ⑩ 決算 】

- ・ 制作費、人件費も含み、より集中投資した方が鑑賞者には楽しいものになると感じた。
- ・ 事業費の見直しと云うより、事業費に見合った規模での芸術祭を行えば良いと思う。
- ・ たぶん当初予算の他国などからの助成金が途中から増えたように思っています。そうすると計画以外に無駄遣いや余計なものにお金が使われやすいので、事前に何に予算が必要かを考えておくことが肝要。

#### 【 ⑪ 継続開催 】

- ・ 文化活動は継続することによって、だんだんと地域に根差し、人を育てるから。

- ・ 継続できるならばした方がよいし、是非してください。継続してこそその価値が出ると思う。その年のただのイベントにせず「水土」を新潟市とイメージリンクさせてほしい。
- ・ 継続する事で更なる大きな芸術祭へと昇華していくので、まず5回は続けてほしい。
- ・ 続けることがどんなに大変か「大地」を見ていればわかります。それでも続けるモチベーションの維持としくみの工夫が市のチカラになると信じます。
- ・ 芸術祭期間の短縮(集中)。継続可能な作品展示の継続(次回への呼び水)。パスポート料金の設定。招待の取扱い方(呼び水, PRのための戦略的な招待枠の設定)。
- ・ 私は新潟市民ではありません。「みずつち」に求めるのは新潟市とそれ以外の地域との交流です。新潟市そして新潟県を元気にするためにトリエンナーレ(3年毎の開催)形式での連続開催に賛成します。是非次回もサポーターとして参加したいです。
- ・ 芸術祭は新潟の土地性を生かして取り組んでほしい。街と地域が隣接していること。川と海が創り出した土地の様子と、人々が生きる糧としての田んぼ、治水土木工事の様子など、身近で実感できる土地である新潟をもう一度知る、景観を見直す、生活の有り様を再考する上で残されている資源を生かした取り組みにさらに目を向けていく必要はないのでしょうか。「なぜやるのか」の論点についてそこに出向いて議論をすることを行うだけでも、芸術祭としての取り組みは十二分に意義のあることと考えます。
- ・ トリエンナーレとして2015年に実施するため、今年度から早めに準備を開始する
- ・ 地域で継続的、主体的なアート活動の実施が可能な団体のネットワークを組織する。

## 【 ⑫ その他 】

- ・ 基本的にこの手の活動が地域のマイナスになることはあり得ないと思っています。
- ・ 自分の住むまちを知り、様々な活動に取り組むきっかけを提供できた。
- ・ 成功したかどうか、すぐに結果や効果がわかりやすく出るものではないと思います。あとになってから、開催や作品プロジェクトの意味を噛みしめたり、いつか何か次の行動に繋がったとき、開催の意味が深まるのではないのでしょうか。私自身、今回の開催ひとつとしてというよりも、2009 開催からサポーターを継続し、ものの見方や考え方が大きく変わりました。大変ではあるのだけれど、何ものにも変え難い貴重な経験をさせていただき感謝しています。
- ・ 新潟県、新潟市は越後妻有大地の芸術祭と水と土の芸術祭の2箇所で開催があり、知名度もあり固定的なファンもいるので改めて新潟の良さを確認できるのでは。新潟の食や自然も理解されるのではないかと思います。
- ・ 関わった人かそうでないかで大きく意見が分かれるところだと思います。興味の薄い人の反応は「やってたんだっけ？」というものも多かったですが、渦中に入った者

にとっては、大きく進歩したのではないかと思っています。次が問題ですね。

- ガイドチームの活動が軌道に乗るまで連絡等(通信等)の支援をしていただきたい。
- 市民が喜んでいないように感じるから。
- あまりに市にとって、メリットはないような気がします。
- 根本的な見直しから始める。

## 7. ディレクター等の提言

「水と土の芸術祭」に関する提言

平成 25 年 5 月 31 日

佐藤哲夫, 竹久侑, 丹治嘉彦, 堀川久子 (水と土の芸術祭 2012 ディレクター)  
大倉宏 (水と土の芸術祭 2012 アドバイザー)

「水と土の芸術祭 2012」が終了しました。ディレクターおよびアドバイザーとしてこの事業に関わったことは、私たちにとっても貴重な経験でした。この経験を今後に生かしていただくために、私たちの観点からみた本芸術祭の成果と課題を以下のようにまとめました。特に課題は次回開催に向けての検討事項となることを願います。

### (1) 成果

「水と土の芸術祭 2012」では、次の6つの点で大きな成果があったと考えます。

#### ①市民力の開花

アートプロジェクトにおいては、私たちは作品をモノとして残すことではなく、作品の鑑賞あるいは作品（プロジェクト）に携わる経験をとおして、来場者に多様な視点や特別な記憶をもたらし、主体性を刺激し、また人と人とのつながりを媒介することで、終了後も継続するインパクトを残すことを重要視しました。その結果、会期中、作家による作品から、市民による活動が自発的に展開し、市民の居場所やつながりがうまれ、また協力して事を成し遂げることの達成感と可能性をもたらすことができました。さらに、作家のプロジェクトが市民に継承され、展開を見せていることも大きな成果の一つといえます。

#### ②来場者層の拡大

「水と土の芸術祭 2012」では、来場者層の拡大と市外および県外からの誘客に戦略的に取り組みました。市内でも子ども連れを含む20～30代の若年層の来場を促すプログラムを心がけたところ、20～30代で半数以上、また市外からの誘客を約47%にまで伸ばすに至り、大きな成果がみられました。

#### ③アートプロジェクトの評価

新聞紙上で2012年を代表する展覧会の一つとして識者に選ばれたことを始め（2012年12月13日読売新聞、選者：建畠哲氏 [京都市立芸術大学学長]）、会場の特性を生かした作品展示と会場構成、および野心に溢れ、

問題意識の高い作品内容に対し、専門的な見地から高い評価を受けました。また、市民の間でも、革新的な表現に対しては賛否が分かれたものの、評価する人々からは、非常に深い印象を受け、刺激されたという声が聞かれました。賛否の分かれるほどの先鋭的な表現に市民が触れる機会を設けられたことも本芸術祭の一つの成果といえます。

#### ④こどもプロジェクトの成果

こどもプロジェクトでは、多くの子どもが造形や制作を通して人と関わり、物をつくることの本源的な喜びを味わいました。この自由な楽しさが芸術（アート）なのだというメッセージを、親や子どもに伝えることにつながりました。

#### ⑤産業遺構の活用

万代島旧水揚場を芸術祭のメイン会場として活用したことは、前回の芸術祭ではあまり光のあたらなかった「港」や「漁業」の歴史に人々の関心を向けさせ、港町という都市イメージを印象づけました。このように産業遺構の文化的な活用事例を市内につくったことは、「創造都市」を追求する上でも有効な、地域の魅力を内外に示す具体的な方法を例示したといえます。

#### ⑥多様な人々が芸術に触れる機会の創出

多彩な参加型プロジェクトおよびワークショップを実施したことで、市民の積極的な文化活動を促したのみならず、内に不安を抱える若者らも招き入れ、生きることへの多様なアプローチを示唆するものとなりました。また、より多くの学生が市街地に繰り出し、芸術を通して地域を知る機会になったことも新たな成果でした。

## (2) 課題

上記のような成果があった一方で、反省点や今度取り組むべき課題もみられました。次回以降の開催にあたって検討していただきたく、以下にまとめます。

### ①理念、基本姿勢

#### i) 芸術祭としての内容の充実を第一義に

芸術祭はアーティストの表現が十分に引き出されて素晴らしいものになります。芸術祭が「芸術祭」として純粹に成功してこそ、それが地域振興、交流人口の増加、観光等にもよい波及効果を及ぼすと考えます。その意味において、今後の芸術祭の開催にあたっては、芸術祭としての内容の充実が第一義に考えられることが望ましいと考えます。新潟市の行政において

は文化政策課および美術館が主体的、積極的に関わるのが自然と考えます。

ii) 理念，ミッションについての討議の重要性

芸術祭の理念やミッションについては，開催回ごとに，実行委員長の提案をもとにプロデューサー，ディレクターらが討議し，吟味すべきと考えます。2012年はその討議や吟味が十分にできなかったことが反省点として残りました。「交流人口の増加」はあくまでも芸術祭の波及効果として生じるものです。芸術祭の「理念」や「ミッション」はそれに先行して，十分に討議され深められる必要があります。

iii) 十分な準備期間を

2012年の芸術祭は，開催決定が遅れた結果，同規模・同類の事業としては準備期間が短く，そのしわ寄せが多く関係者に及び，準備時間が相応にあれば可能であったこと，ないしはさらなる充実が図れたことがかなわず，また未然に防げたはずの危機を招きました。このことを2012年の最大の反省点の一つとして挙げたいと思います。3年毎に開催するのであれば，実施年度内に成果と課題を振り返った上で，即，次回開催を表明する必要があります。たとえ規模を縮小させても，中長期的展望のもと継続を前提に芸術祭を行うことでこそ，人が育ち，継続を促す空間を作り出すという認識が必要と考えます。

## ②体制，人事

i) 芸術祭の運営主体は，行政でなく，地元の民間団体であるべき。

行政特有の予算執行における硬直性が運営の大きな障害となったことを感じました。予算執行に柔軟性をもたせる意味でも民間への運営委託は優先的に検討されるべきことと考えます。但し，現時点で新潟に2012年と同規模の芸術祭の管理運営を担える民間団体はないと思われるため，いくつかの段階を経る必要があるでしょう。市役所には民間に外注するという考え方ではなく，民間と協力し，民間をサポートする姿勢が求められます。そして将来的には民間が主体となった運営体制がこの種の芸術祭の実施には必要であると考えます。

ii) 市役所内の芸術祭に対する協力体制の見直し

2012年は担当課以外の市役所職員の熱意や関心がうまく取り入れられませんでした。祭りは，名義や机上の協力だけでは成立せず，あくまでも実働をともにすることが成功の源になると考えます。各課の縦割りの構

図を廃し、所管課（水と土の文化推進課）以外の部や課（文化政策課，歴史文化課，地域・魅力創造部等）および区役所，美術館，文化会館，公民館等と密に連携する姿勢と働きかけが必要です。但し，あくまでも先述の①－i）が前提であり，その上で地域振興，交流人口の増加，観光，創造都市等の政策との関連づけ，相乗効果が図られるべきだと考えます。

iii) ②－i) で記したような民間主体の事務局に，市役所から若干名の職員を外向させる等により，市役所の部署間，区役所，美術館，文化会館，公民館等との連携や消防署等との交渉において，協力体制が整えられることが望まれます。

iv) 芸術祭を統括する責任者およびその他ディレクター等の役割と責任の明確化

2012年の4人のディレクター制は，それによる成果もあった一方で，総合ディレクターが不在であったために，迅速な意思決定，芸術祭の総合プロデュース，広報戦略に課題を残しました。また，事務局の権限がディレクションの領域にまで及ぶことがあり，それぞれの役割と責任について認識が共有されないまま事業の実施が進行したことで，困惑と摩擦が少なからず生じました。役割と責任の明確化により，そのような事態が今後解消されることを望みます。

v) 広報ディレクターの配置

2012年は，美術関係者および美術に関心をもつ層には芸術祭が周知されましたが，市民に対するアピールが市の内外ともに不十分でした。その反省をふまえ，美術関係者だけでなく広く一般向けに広報戦略を立てることができ，かつ広報物の制作においてデザイナーに的確な指示を出し，あるいは協議してともに作りあげることのできる広報専門のディレクターを据えるべきと考えます。また，海外に対しては，海外向け広報の専門家に委託すると広報の実施が効果的かつ円滑になると考えられます。

vi) 専門スタッフの募集方法および採用における改善

2012年の専門スタッフは熱意に満ちていましたが，専門性や経験が十分でない場合があります。また，彼らの熱意をうまく生かすための指導ができる経験とスキルを備えた上役の職員も著しく限られていました。このことが芸術祭の円滑な管理運営を難しくし，また相当な負荷をスタッフに強いることとなりました。2012年の専門スタッフの採用は市役所人事課と水と土の芸術祭推進課の采配によるものだったと聞きましたが，専門スタッフの採用には，ディレクター等現場経験のある者も審議に加わる必要が

あります。また、国際芸術祭と銘打った芸術祭であったにもかかわらず海外から多くの作家を招聘できなかったのは、海外作家への対応には日本人作家の2倍以上の労力と予算がかかり、今回の体制では対応できないと判断したためでした。同規模の国際芸術祭には経験値の高い人材が不可欠ですが、そうした人材は公募しても集まらない可能性が高く、望ましい候補者に受験してもらうよう働きかける必要があると考えます。

### ③芸術祭の構成

芸術祭の骨子は、総合ディレクターが構成する。

2012年は、アートプロジェクト、市民プロジェクト、シンポジウムという3本柱の構成でしたが、シンポジウムとほか2本柱との関連性が薄かった点が反省点として挙げられます。シンポジウムは大熊参与によって先に企画された一方、アートプロジェクトと市民プロジェクトはディレクター4人が協議・分担して構成したため、先に企画されたシンポジウムと内容面で関連づけることが困難であり、また関連付けのために努力する余裕もなかったのが実態でした。芸術祭の骨子は、そもそも総合ディレクターの責任のもと構成されるべきであり、その責任において、各事業の関連性が企画段階から検討される必要があります。2012年の3本柱構成も含め、芸術祭の骨子についてはディレクターを中心に判断されるべきだと考えます。

### ④参加作家の選定

参加作家の選定および出品作品数は、ディレクターが中心となって判断する。

2012年は、公募作家を選出するにあたり、予算請求時に議会に説明した人数とあわせるよう事務局より要望されましたが、その人数が多く、与えられた体制で対応できるものではありませんでした。そのため採用人数縮小の必要を求めたものの、結果的に十分に対応できる数を上回り、公募作家の対応はディレクターではなく事務局スタッフに任せられ、作品制作のサポートが十分になされないケースも生まれました。この反省をふまえ、招聘・公募とも、数より質を重視する方向への転換を検討する必要があると考えます。作家の選定および作品数の決定においては、行政的な判断を優先させるのではなく、経験値のあるディレクター等が主体となるべきです。

### ⑤市民プロジェクト

市民プロジェクトの充実のためには、事務局と市民団体の望ましい連携について改めて検討が必要。

2012年は事務局からの要望で採択数を多くした結果、個々への補助金が限られ、各事業の内容および事務局・市民団体間の連携のあり方に改善の

余地が残りました。今後は数ではなく、活動を通して得られる体験を重視する方向への転換が必要と考えます。また事務局側の広報協力はもちろんのこと、活動のサポートの仕方についても再検討が必要です。

#### ⑥万代島旧水揚げ場

芸術祭メイン会場となった万代島旧水揚げ場は、新潟の地域文化を表象する貴重な産業遺産として残すべき。

大かまぼこ、旧水産会館および小かまぼこは、新潟の水産文化を表す貴重な産業遺産として無比のものであり、今後も3つを1セットとして芸術祭等の文化事業の会場として活用されることが望ましいと考えます。他の都市の例が示す通り、貴重な産業遺産の活用こそが、地域の歴史文化を保存し、かつ都市文化を形成し、外に向けて発信する上での地域の魅力となります。増強・改装にあたっては、あくまでも水揚げ場としての特徴が十分に保たれる意匠であることが不可欠であることを強調したいと思います。また、大かまぼこの半屋外空間だけでは事務所および控室機能をもたないため、旧水産会館とあわせて残すべきです。

### (3) 次回開催に向けて

「水と土の芸術祭」は、第1回から第2回にかけて、ディレクターの交代により構成や内容、特徴に変化がみられましたが、どちらも目標を上回る来場者数に達しただけでなく、芸術祭をきっかけに、市民による多くの活動が生まれ、展開しました。そのことを本芸術祭の最大の成果の一つととらえる観点から、その芽を途絶えさせることなく育て応援することで、生きることを激励し、市民による活動がさかんな活気あふれる町をめざし、第3回はもちろんのこと継続的な芸術祭開催を提言します。

次回の開催趣旨は次回のディレクターに委ねられますが、「水と土の芸術祭 2012」のディレクターおよびアドバイザーとして、以下を提案します。

#### ①市民主体の芸術祭に

新潟で芸術祭を行うことの意味が、実態を通して明らかであるような体制、内容とする。このことは、他都市で開催されている国際芸術祭との差異化を図ることにもつながります。例)新潟の地元の人々が運営の中核を担う(運営の民間委託)

#### ②市民プロジェクトの質の充実を

芸術祭の開催されていない年であっても継続・展開されるようなプロジェクトの企画を図る。

③「芸術」を広義にとらえる

作家による現代美術やパフォーマンスだけに限らず、新潟の民俗文化や伝統芸能、工芸、また子どものためのアートなど、日常に根付いた創造的な営為をも対象とすることで、市民にとって身近な芸術活動の推進に寄与する。市民プロジェクトはこの観点からも重要といえます。

④開かれた芸術祭に

新潟ならではの内容に固執しすぎると当該地域のみ閉じた自己充足的なものになりかねず、市外・県外からの誘客も難しくなります。「水と土」にこだわるとしても、そこから生命、自然といった根源的かつ普遍的なテーマへと視野を広げ、様々な視座から生きることについて思考を巡らせる芸術家を県内外および国外から招き、「今、ここ」でしか制作できない作品の実現を後押しすることで、人々の内奥に迫る芸術祭を模索する。

⑤タイトルおよび会期について

本芸術祭は「水と土の芸術祭」という名称を冠していますが、この名称が継続されることについて、私たちのなかで意見が分かれました。本事業名ですでに2回開催されたことから市民になじみのある名称となっているのであれば継続すべきという意見がある一方で、「水と土」が芸術祭を貫くテーマでもある場合、意図的に拡大解釈して捉えられない限り、取扱いうる芸術作品の範囲を狭め、継続的な展開を難しくするという懐疑的な意見もあります。また、本芸術祭の会期が約5ヶ月間と、同類の他の芸術祭に比べて長期であることについても、そのことによる長所と短所の双方を巡り統一見解を出すに至りませんでした。この2点については次回開催を巡るなかでよりいっそう検討される必要があると考えます。

以 上